

ODAにNGO初活用

政府開発援助(ODA)の活動に、初めて民間活動団体(NGO)が起用されることになった。乳幼児死亡率が高いアフリカのザンビアへ「アジア医師連絡協議会」(AMDA・岡山市)が派遣され、五年にわたり衛生環境の向上に汗をかく。ODAという、これまで援助する方もされる方も政府機関が前面にでていたが、プロジェクトをNGOが仕切ることによって「顔」の見える援助になりそうだ。

「プライマリー・ヘルス・ケア」と名付けられたこの援助に対してNGO派遣に死する割合は千人当たり百九十一人に達する。欧米諸国が五、十人なのに比べて異常に高い。衛生環境も劣悪で、これらが子供たちを直撃しているという。国際協力事業団でも、小児医療や感染症対策のため、

ザンビアへ 医師・看護婦 保健所の役割期待



め、一九八〇年から同国唯一の高度医療機関であるザンビア大学医学部に医療機器や医師を送り込んだりしてきた。しかし、住民は風邪やけがといった簡単な治療でも訪れ、病院の機能は滞りがち。

住民の生活の場に入っていくか。事業団では、ルワンダやネパールで充実を目指す。日本で戦後の医療活動に実績があるAMDAに白羽の矢を立て、AMDAは一九八四年買った保健所システムを、につくられ、現在では医師根付かせたいという。また、飲み水管理など衛生意識の改善にあたる。現AMDAはザンビアへ常時、二、三人の医師や看護婦を派遣し、現地の医師と一緒、ルサカ市や近郊に煮沸消毒を呼びかけ、居住する二、三人の医師や看護婦たちを派遣し、現地の医師とルサカ市やその近郊にある十二か所のヘルスセンターとよばれる診療所の充実を目指す。消毒、検査、治療までの一貫した保健所システムを根付かせたいという。

顔の見える援助狙う

政府開発援助(ODA)の活動に、初めて民間活動団体(NGO)が起用されることになった。乳幼児の死亡率が高いアフリカのザンビアへ「アジア医師連絡協議会」(AMDA・岡山市)が派遣され、五年にわたって衛生環境の向上に汗をかく。ODAはこれまで政府機関が前面にでていたが、プロジェクトをNGOが仕切ることによって「顔」の見える援助になりそうだ。

政府海外援助に AMDAを起用

ザンビアの医療充実

ルサカ市入りに向けて、菅波茂代表を団長に十人の事前調査団を組んでいる。ザンビアは人口八百六十七万人。現地を調べている事業団の職員によると、子供たちが五歳までに死亡する割合は千人当たり百九十一人に達している。上水道は都市の一部にしかなく、住民のほぼ七割が生活しているコンパウンドと呼ばれるスラムでは、雨水や川の水が頼り。ひとたび感染症が猛威を振るい始めると、多くの犠牲者が出るのは避けられない。



住民の生活の場に入っていくか。事業団では、ルワンダやネパールでの医療活動に実績があるAMDAに白羽の矢を立てた。AMDAは一九八四年買った保健所システムを、につくられ、現在では医師根付かせたいという。また、飲み水管理など衛生意識の改善にあたる。現AMDAはザンビアへ常時、二、三人の医師や看護婦を派遣し、現地の医師と一緒、ルサカ市や近郊に煮沸消毒を呼びかけ、居住する二、三人の医師や看護婦たちを派遣し、現地の医師とルサカ市やその近郊にある十二か所のヘルスセンターとよばれる診療所の充実を目指す。消毒、検査、治療までの一貫した保健所システムを根付かせたいという。

12年の実績評価 住民に溶け込み活動

AMDAの菅波代表は「住民の間に入っている活動はNGOの得意分野」と意欲を燃やしている。